

“Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第17巻 第3号 (No.52)

発行日 2023年3月1日

目次:

教育センターの活動を振り返る	1
療育プログラムの様子	2 3
コラム：視点と立場	4
教育センターからのご案内	4

教育センターの活動を振り返る

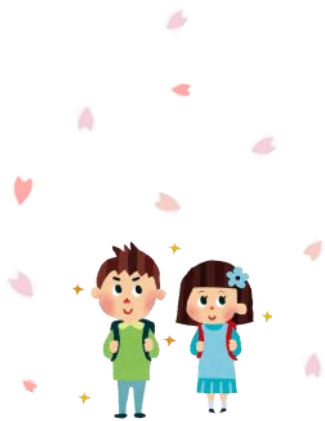
教育センターが、北原記念館にて本格的な活動を開始して、17年という年月が過ぎました。設立当初からの情熱を持ち続けて活気に満ちた活動を今も展開しています。これまで、スタッフが一丸となり礎を築くための努力を重ねる中で、一般的な医学的・行動分析的な方法論ではなく、生活療法を基盤においた教育・実践論に基づいた新たな視点を加味しつつ、指導の基盤を築くことができたと自負しています。とかく「数値で測れる明らかなデータに基づいた」実践に偏りがちな機関が多い中で、「子どもの成長や修得度」に基づいた実践を通して、いつも子どもの「学ぶことを楽しむ心」や「質の伴った結果」に目を向けるよう心がけてきたことで、着実に成果を上げてきていると感じています。その意味でも他の療育機関とは一線を画していると矜持を持っています。

教育センターでは、療育活動をはじめとした5つの活動を柱に、外部の方々にも「東学園の教育の機会を」との考えのもとに療育活動を中心に据えています。2歳～18歳の約470名が様々なプログラムを受講しています。療育に携わるいろいろな分野の専門性を持った所員は、お互いに情報交換し、多種のプログラムを担当することでジェネラリストを目指していきます。より質の高い、包括的、且つバランスのとれたプログラムが提供できることこそが、子どもの人間としての発達に非常に大切なのだと思います。それとともに、学園の良さである一人の子どもをみんなで支援する体制づくりにも心を砕き、日々所員同士が連携し切磋琢磨しながら教育の向上を図っています。

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

また、保護者の方々への支援活動として、皆様が交流しやすい開かれた居場所を提供するとともに、ご家族の交流の場として茶話会やファミリーデーを開催しています。今年度のファミリーデーは、ドラムサークルの活動をしている方をお招きして、体を使って音楽を楽しむ会を行いました。参加されたご家族と所員が輪となり、ドラムをたたくことで心を自然に通わせる良い機会となりました。また、センターを巣立ったOB・OGのためのホームカミングデーも開催しています。地方から参加される方もおられ、交流の輪を広げています。仕事をしている方、美術や音楽の発表をしている方など、それぞれの場所で自分らしく生活している姿にセンターの役割の重さを改めて感じています。参加された方々からは「センターはいつまでも心の拠り所です」「共通の趣味の方と今もつながっています」など嬉しい言葉をたくさんいただきました。

コロナ禍の中ではありましたが、感染予防に気をつけながら療育を継続できたのは受講されている方々の理解と切実な思いや、子どもたちのためにと創意工夫を重ねた所員の力があつたからです。その中で多くの学びがありました。特にオリジナル教材・教具の提供及び動画配信を通して、遠隔地の方々でも学びやすい環境の糸口が整えられてきたことや情報機器を活用した指導が充実したことは、これからの療育活動の幅を着実に広げていくことになると思います。教育センターは新たなプログラムや情報発信の方法などへの取り組みをさらに模索していきます。受講者の皆様には引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。





療育プログラムの様子 【各教室・言語プログラム】

幼児絵画造形教室

紙版画に挑戦しました。始めに、○、△、□の形を使って家、木、ロケットなどを作る構成遊びを楽しみ、次に自分が作りたいものを台紙の上に構成しました。そして、ローラーにたっぷり絵の具をなじませて転がし、和紙をのせて擦りました。ゆっくりはがしていくと、少しずつ形が見えてきて…「あれ！絵が反対になっている!!」不思議な仕上がりにみな驚いていました。(本田)



そーっと めくってみると…

リトムーブ教室

画面に映し出された矢印の方向に両手や片手を動かす「矢印運動」を行いました。上下は両手、左右は片手だけで表すといった課題に、初めは大きく混乱していましたが、慣れてきたら「上」「右」「左」など声に出して取り組むことができました。ゲーム感覚で楽しめる活動ですが、視覚情報を入力し、考え判断して体に伝え、動作に表していく複雑なプロセスが要求されます。リトムーブでは、楽しみながら脳と体の連携を促すことを大切にしています。(高橋)



「ひだりっ！」

音楽教室 メロディ担当(ピアノ)と伴奏担当(ギター)に分かれ、アナと雪の女王「レット・イット・ゴー ～ありのまま～」のアンサンブルに挑戦しました。友だちとびったり息



ピアノとギターのアンサンブル

が合った際の高揚感や達成感、その後音楽に没入していくきっかけとなり得る貴重な体験となります。この教室での演奏が原体験となり、今後の余暇の過ごし方に繋がっていくことを目指しています。(平瀬戸)

SST教室 小1・2年生は自己理解、他者理解の活動として「自分マップ」と「寄せ書き」の作成をしています。この1年間、様々な方法で人と関わるために大切なことについて学びを深めてきました。授業で取り組んできた事を振りかえりつつ、自分マップに得意なこと苦手なこと



寄せ書きを書こう

などについて記し、心を込めて一緒に活動した友だちとの思い出を書くことで、1年間のまとめとしていきます。(高橋)

言語プログラム

レッスンにおいて、子どもの好きな玩具を故意に取りにくいところに置いたり、使いにくいまま渡したりすることがあります。大人が配慮し、使いやすいように子どもに渡したりするほうが何事もスムーズに進むかもしれませんが、「取って!」や「手伝って!」のように、他者に助けを求めるためのことばは、普段から使う機会を増やしていくことが大切だと思っています。(長田)



「あけて!」

ダンス教室

1年のまとめの発表会では、曲に合わせてヨガをする「地球たんけんたい」とハートの小道具を使った「LOVE」という作品を披露しました。本番前は「ドキドキする」と言っていた子ども、最後まで笑顔で踊りきることができました。終わった後の達成感にあふれた表情がとても印象的でした。今年度も参観はご家族のみとさせていただきますが、子どもたちは力いっぱい練習の成果を発揮することができました。(益田)



発表会が終わりました!

体育教室 小学生の体育教室では、インラインスケートを行っています。この活動のねらいは、大きくて重いスケートを履き、歩いたり、滑走したりすることで平衡感覚や脚力をつけることにあります。はじめ



さあ、いくぞ!

は、真っ直ぐに立つのも困難な状態ですが繰り返し練習を行うことで、前に進むだけでなく後ろ向きでの滑走やスラローム滑走、曲がる際に足を交差させて滑るクロススケートなどできるようになります。(菊池)

コンピュータ教室 2月26日に「情報処理検定試験」を実施しました。毎年、試験に挑戦する子が増えていて、何年か連続で受けている子たちは昨年度よりも上の級に合格



検定試験の練習

をすることを目指してがんばってきました。試験が始まる前は緊張している様子の子もいましたが、いざ試験が始まるととても集中して取り組んでいました。これまでの練習の成果が発揮できたのではないかと思います。(大澤)



【スクールプログラム・ラーニングプログラム】

幼児 ひな祭り製作を楽しみました。「おひなさま」の歌を聞いたり絵本を見たりして気持ちを盛り上げてから、親子教室は花紙を丸めて、年少と年中は折り紙で、年長は絵の具を使って各学年様々に取り組みました。小さなシールを一生懸命に貼る姿や折り紙にしっかり折り目をつける姿、絵筆で丁寧に着色する姿にこの1年間の成長を感じることができました。(本田)



かわいい着物のおひなさま！

1年生 算数で「お金」の学習をしています。まずは、硬貨の種類を確認し、1円玉、10円玉、100円玉の数を覚えていきます。「1円玉が10枚でなんと10円に変身！」「10円玉が10枚で100円に変身！」そして、実際に模型の硬貨を使って商品の金額を揃える練習をしました。「クッキーは63円です」などの問いに、「10円、20円・・・」と真剣に数えていました。(本田)

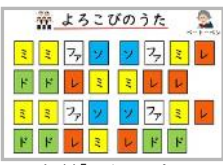


10円、20円・全部で63円！

2年生 体育でバスケットボールを使った基礎的な運動を行っています。ボールを持った状態での模倣や担当者の号令に合わせて両手や片手ドリブルの練習をしています。バウンドの強さで弾む高さが変わること気がつき、ドリブルの力を調整していく様子が見られるようになってきました。怪我に気を付けて楽しみたいと思います。(壹岐)



ボールを上!!



木琴「よくみてね」

3年生 音楽では「よろこびのうた」に取り組んでいます。ハンドサインで音を確認し、今は木琴に挑戦中です。コロナ前のセンターの音楽では鍵盤ハーモニカを使用していましたが、現在は木琴で音階を学びメロディを奏でる楽しさを味わっています。木琴には階名譜と同じ色のテープを貼ってわかりやすくしています。回を重ねるごとに上達しています。(宮下)



ずれないように丁寧に

4年生 図工の授業で切り紙に取り組んでいます。画用紙などを形に切り抜き、台紙に貼り付けて完成です。2月は「ウグイスと梅の花」をモチーフに作品を仕上げました。1年間様々な製作を通して手先を使う練習を重ねてきましたが、その成果もあり、一つ一つの手順を丁寧に意識が定着しました。友だち同士で作品を褒め合っている姿も印象的でした。(柳澤)

5年生 算数の学習で「割合とグラフ」に入りました。小数、分数、百分率、歩合の関係や帯グラフと円グラフの読み取り・グラフの作成を行っています。今後、生活に役立つ算数として、電卓を使って〇割引き・〇%引き後の値段を求めたり、値引きされた金額を求めたりする方法を学習していき、今年度の締めくくりとしていきます。(藤本)



円グラフの作成

6年生 コンピュータの授業でローマ字入力の練習を毎回行っています。継続してきた結果、ローマ字を覚えたり、五指を使って正しい指遣いで打てるようになってきたりとそれぞれに着実に成果が出ています。また、今年はタイピングソフトを使っての練習に加えて、季節の行事について書かれた文章などを制限時間にどれだけ入力できるかといった課題も取り入れました。(高松)



一文字、一文字丁寧に

中学生 国語で説明文「コミュニケーションとあいさつ」の学習をしました。あいさつには言葉を使うあいさつと言葉を使わないものがあり、後者の例としてお辞儀について学びました。お辞儀にも会釈、普通礼などいくつかの種類があり、中学生らしいあいさつとして会釈の練習もしました。あいさつの成り立ちや世界のあいさつについても、説明文を読んで学習しました。(大澤)



お辞儀の種類

ラーニングプログラム 子どもたち個々のニーズに応じて、認知や学力を高めるための個別指導を行っています。「わかった！」「できた！」という気持ちが丁寧に積み上がるように教材や課題を工夫しています。集中力を高めるために体を動かす運動の時間を入れたり、コミュニケーションをとりながら手先を使う活動を取り入れています。また、「一緒に楽しむ」ことも大切にしています。(壹岐)



色をよくみて入れよう！



コラム 教えてもらったこと (3)

視点と立場

明地 洋典 (京都大学教育学研究科准教授)

今回は、武蔵野東学園と関係が深い東條吉邦先生についてです。東條先生は、いま武蔵野東教育センターと小学校が建っている土地にあった国立特殊教育総合研究所(現国立特別支援教育総合研究所)分室に25年間勤務された後、茨城大学で教授を務められました(詳細は教育センター会報第9巻第1号参照)。夏の実験は分室で行われていたものを引き継いだものでした。東條先生は皆から愛される人間性の持ち主です。

東條先生は電車好きで、話し出すと止まりません。同じく電車好きの子と関わると、電車で詳しくない人にはわからない話が展開されます。そういうときは、東條先生も相手の子も楽しそうで、互いにしかわからない世界を確かめ合っているようにも見えます。東條先生はご自身でも自閉スペクトラム度が高いと

話しています。

あるとき、東條先生が小さい子を相手に、いないいないばあの動きをしながら「みえないみえないばあ」とおっしゃいました。子どもから「みえない」という意味ではなさそうだったので、東條先生はとっさに自分の視点から言葉を使われたようでした。

他者の視点や他の地点からの見え方や感じ方を推測することを視点取得と呼びます。自閉スペクトラムの人たちは視点取得に違いを見せるという報告もあります。一方で、自分の視点のみに基づいてとっさに反応してしまう傾向が一般の成人たちにも根強く存在することも報告されています。

東條先生は常に自分視点で人と接するわけではありません。お子さん本人や保護者の方に対して「何が好きなの？」と問いかけ、純粋に

相手の好みや考えを知ろうとなさいませ。保護者の方々も東條先生に様々なことをご相談され、話せてよかったと言いながら帰られる姿を何度も見ました。そのように安心される要因の1つに、誰にでも見せる東條先生の屈託ない笑顔があるかもしれません。



社会では立場を弁(わきま)えることは重要とされますが、弁えない姿が人に大切なことを教えることもあります。教授という立場にありながら、封筒の切手貼りや深夜のEメール対応など地道な作業を学生とともにされる方はなかなかいません。最後に、立場を弁えずに書いたこの原稿に目を通して掲載の許可をくださった東條先生に感謝を申し上げます。

このコラムは4回シリーズでお届けしております。

2023年度セミナーのご案内

2023年度の保護者・支援者向けセミナーの日程が決まりましたのでご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせいたします。4月上旬より募集を始めますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

- 第1回 2023年 6月15日(木) 10時~12時
- 第2回 2023年 10月17日(火) 10時~12時
- 第3回 2024年 2月 8日(木) 10時~12時



2022年度第3回セミナーの様子

学校法人 武蔵野東学園
武蔵野東教育センター



〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ウェブサイトもご覧ください

<https://www.musashino-higashi.org>

療育プログラムについて

2023年度の療育プログラムはまだ若干空きがございます。ご見学や面談も随時行っております。空きのないプログラムもキャンセル待ち登録ができますのでお気軽にお問い合わせください。